

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970900508		
法人名	アミコ京阪奈介護サービス有限会社		
事業所名	グループホーム アミライフ・桜ヶ丘		
所在地	〒630-0211 奈良県生駒市桜ヶ丘3番57号		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2970900508-00&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成30年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅に近い環境で生活していただけるように心がけています。心を閉じ込めるのではなく、開放出来るように、一緒に同じ時間を過ごしています。利用者様とスタッフの心の繋がりを大切にする「寄り添い介護」を目指しています。
ご家族様にも日中はいつでも自由に訪れていただき、大切な時間を過ごしていただけるようにしています。
会社のモットーである「笑顔・親愛・憩い」を忘れることなく、これからも皆様の生活を支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、大阪と奈良を結ぶ阪奈道路に面している。法人は、大阪を拠点に展開する複数の事業のなかで、奈良で唯一の事業所である。法人の理念「笑顔・信愛・憩い」を基に利用者により寄り添った介護を目指し利用者が重度化する中でも利用者の思いに寄り添い、危険がない限り自由で家庭に近い生活が送れるよう支援している。男性職員も多く活気があり職員間の人間関係も良好で利用者により優しく接している。管理者は、事業所の体制も変わり人材の入れ替わりもあり過渡期だと考えており今後に向けて模索しながら介護の質の向上を目指している事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの本来の意義を大切に、利用者お一人お一人の思いに寄り添い、職員と子ども楽しい穏やかな生活を送るように心がけています。	ホームのモットーである「寄り添い介護」を実践するため利用者に応じた声かけを工夫し共有している。職員は、制服の背中に書かれた法人理念の「笑顔・信愛・憩い」を意識しながら介護に努めている。職員の入れ替わりがあり経験の浅い職員にはスタッフミーティングで話し合い理念の実践について理解を深めるための時間を作っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の一員として、清掃や行事にも積極的に参加し、また施設行事にも参加していただけるように働きかけています。	自治会の夏祭りに利用者と共に出席、地域掃除には職員が参加した。古民家で開催される地域のサロンに2名の方が参加された。今年度のホームのクリスマス会・餅つきには、インフルエンザの心配があり地域に声掛けできなかった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームについての地域の理解が深まるように、生駒市のグループホーム交流会を定期的に行ない、全体として協力し合いながら、認知症の人の理解が深まるような取り組みを行なっています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、定期的開催し、地域住民・役所・包括・ご家族・他の施設の方とともに、意見交換や情報の共有をしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度、多方面の方たちの参加を得て開催している。1階のデイサービスと合同で開催することもある。会議ではホーム内の議題は限られているが、情報交換と行政への要望や質問は活発である。家族から職員の名前を分ける様にして欲しいとの希望があり検討中である。	自己評価や外部評価結果を議題に取り上げ広く意見を聴き協力を得るなどサービス向上に繋げる取組みを期待する。また、自己評価は職員も参加して評価を行い、外部評価結果を家族にも周知することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、日常的な情報の共有に努め、良好な関係を築けるようにしています。	毎回の運営推進会議に市の担当者の出席があり、推進会議の議事録とホーム便りも届けている。市の担当課は、話をよく聞いてくれ相談しやすいと感じている。地域包括支援センターにも呼びかけ生駒市内のグループホームで交流会を開催している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者やご家族の思いを第1に考えることを研修会などを通じて共有しています。スタッフの都合で接することのないよう徹底しています。万が一に備え、施設玄関は施錠しています。	ホームとしては、身体拘束はしない方針だが、安全面を考慮して実施する場合は、家族の同意を得ている。夜間ベッドからの転落防止のため半分だけ柵を利用している。幹線道路に面している為玄関をセンサー施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待や権利擁護について研修会で徹底し、スタッフ間で気付くことがあれば、意見交換や情報交換を出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度について研修などを通して学び、その必要性を理解し支援しています。現在1名、後見人がおられます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす場合は丁寧に説明を行い、疑問があるときはいつでも応じ、理解と納得を図っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からは、生活の中での要望の把握に努めています。	家族の面会時に意見や要望を聞きとり業務日誌の要望欄に記載し、訪問の少ない家族には、お便りに意見をもらう用紙を同封して聴いている。内容は、3ヶ月に1度開催の会議で話し合っている。美容院への外出が難しくなったとの家族からの相談を受け訪問理容を取り入れ他の利用者にも喜ばれた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、幹部会議を行い職員の意見や提案を取り入れ話す機会を設けている。月末には全員参加による全体会議を行なっています。	毎月末の全体会議でホーム長が、個々の意見を聴く機会を設けレクリエーションの提案や日常の介護についての意見を取り入れている。職員アンケートで思いや目標も聴き職員は、何でも言えると感じている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個人の個性を大切に、やる気・やりがい・モチベーションを損ねないような労働環境の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や社内の研修に参加してもらい、働きながら技術向上のためのトレーニングを行なっています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	生駒市のグループホーム交流会や多職種交流会を開催し、ネットワーク作りや勉強会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの要望、本人の面談により情報収集を行い、困っている事、不安な事をお聞きし、内容によっては主治医・看護師の意見を交えて本人の安心と心の繋がりを大切にしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ヒアリングによるアセスメントを行い、常々不安なこと、要望等に耳を傾け、関係作りに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意見を伺い、より良いサービスが提供できるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊厳の気持ちで、暮らしを共にするもの同士の関係を心がけています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、家族と本人との絆を大切にしながら支援しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の一部の方は、友人の方が会いに来られたり、近所の方との交流を図っています。	外出、外泊も自由で家族と法事に出掛けたり、馴染みのデパートに出掛け外食を楽しむ方もある。昔見ていた生駒山が毎日見えるからとこのホームを選んだ方がある。生活保護や家族のいない利用者の支援は今後の課題である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に共同生活の色々な場面で、孤立せず他の方と関われるように、職員も一緒に関わりながら交流を図っています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居後も、状況が把握できる限り行い、入院先に訪問に伺い経過の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者の意向を把握するため、まずお会いしています。また、ご家族様からのご本人の思い、希望をお聞きし、出来る限り意向に添うように努めています。困難なことは最小限に自尊心を傷つけないように対応しています。	入居時にアセスメントシートを作成し、日常のケアの中やモニタリング時に思いや希望を聴き意向に副うようにしているが楽しみ事の把握が少なく医療面やADL中心である。	アセスメントシートに興味や特技、生きがいや馴染みの場所や関係を記録し生活歴欄を充実させ笑顔が増えるプラン作りに活かすことが望まれる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントの情報に基づき、サービス利用のモニタリング、入所後のカンファレンスを行い、さらなる思いや意向の把握につながるよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況については、常に情報を把握できるようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をもとに、計画・実施・モニタリングの記録を残し、担当者会議を開きケアの見直しをして、次の介護計画を作成しています。	3ヶ月に1度モニタリングを行い家族の面会時に話を聴き、毎月行う部門別ミーティングで職員の意見をまとめ計画を見直している。アセスメントを充実させることで笑顔が増えるプラン作りにつながると直よいと思われる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌、業務日誌を活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応した「寄り添い介護」に取り組み、柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との連携・消防との連携・ボランティアの方々と連携して安全で豊かな暮らしなどが出来るように支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、主治医の往診やご家族の希望で歯科医の定期的な往診を受けている。また、判断しにくい発疹などは専門科にお連れして安心できる受診に心がけています。	月2回ホームかかりつけ医(内科)と月1回歯科の訪問診療を受けている。以前からのかかりつけ医の訪問診療を受けている方も2名ある。認知症専門医や皮膚科の受診は家族が行うが有料で職員が付き添うこともある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任ではありませんが、デイの看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診を受けられるように支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生駒市民病院と、協力医療機関連携契約を結び、緊急時などの連携を行なっています。施設主治医とも業務協定を結び、入退院時の情報交換に努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族・本人の意向をお聞きして、かかりつけ医に相談している。看取りの事は、益々重要な課題となると思われますので、家族と話し合いを重ね、出来る限り取り組む方向です。	重要事項説明書に看取りの指針を明文化し、利用開始時に本人と家族に説明している。重度化した場合は、本人の意向をもとに家族と話し合い、医療行為が伴わない看取りのケアについては希望に副う方向である。緊急搬送されて入院になるケースが多く、昨年は病院で亡くなられホームでの看取りの事例はなかった。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内講習会で実践講習会などを行なっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難用のシューターを2・3階の食堂に設置している。年2回の避難訓練を行い、地域の方にも参加していただいで訓練しています。	今年度初めての避難訓練を3月に予定している。来年度は、年2回の訓練を計画している。24時間営業のガソリンスタンドが隣にあり非常時の協力を依頼している。	夜間想定避難訓練を含め年2回の避難訓練計画の実施が望まれる。地域の避難場所になることも考えられるので、運営推進会議を活用し非常時の地域への協力要請や3日程度の飲料水や食糧、その他必要品の備蓄についての検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重しプライバシーの確保に心がけています。言葉ひとつにも尊厳ある言葉、態度で接しています。	毎年プライバシー保護について研修を行っている。人生の先輩として尊厳のある言葉使いと態度で接することを心掛けている。個人ファイルの取り扱いや写真をむやみに取らないなど守秘義務にも気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望に添うようなケアを行い、自己決定できるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての大まかな1日の流れはあるが、一人ひとりのペースとご意思を大事にして支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを重視して、服や身だしなみへの支援を行なっています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全体的に重度の認知症の方が多く、調理をできる方は居ないので、個別に力を活かして片付けやテーブル拭きなどを一緒に行なっています。	食事は業者から届いた食材を1階のデイサービスで調理している。イベント時にお好み焼きを作りデイサービスの利用者と一緒に楽しんだ。お誕生日会には甘味を頂き月に1度淹れたたのコーヒーを香りと共に楽しんでいる。利用者が一緒に調理することは難しいと考えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の健康状態や病状に合わせた食事内容で、一日の食事摂取量・水分量を記録して、一人ひとりの状態を把握しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の口腔ケアの徹底と口腔内の状態の観察に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、その方に適したトイレ誘導に努めています。昼間はリハビリパンツ、夜間は状態に合わせて、トイレ誘導、オムツと個々により対応に努めています。	トイレで気持ちよく排泄してほしいを基本に重度者を除きリハビリパンツを使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導を行っている。排便コントロールをしているので夜間はおむつを用いるが、トイレへ誘導して排泄介助をしている。ポータブル利用者はいない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを把握し、飲食物や軽運動で改善されない場合は、医師に相談し、薬の服用などの対応をとっています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日と時間は決まっているが、本人の体調や本人の希望があれば入浴出来るように配慮しています。	週2～3回午前中に入浴している。見守りで入浴できる利用者もいるが、車いす利用者は、安全を考慮してシャワー浴のみにしている。入浴拒否の利用者が声掛けの工夫で今ではスムーズに入浴できるようになった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握して、休憩や安心した眠りができるように支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医やデイの看護師と相談し、服薬の支援と症状の変化を把握しています。契約薬局と連携し、薬剤の管理を行なっています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って活動的な生活を送って頂けるように行なっている。行事にはクリスマス会や都度都度のお祭りで楽しんでいただきます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間の許す限り、地域への外出に出かけられるように支援しています。また、家族からの申し出により、外出・外食・外泊など、柔軟に支援しています。	地域のサロンや夏祭りに出掛けた利用者もある。家族と外出する利用者はあるが、年毎に重度化が進み事業所は、出掛けることが難しいと考えており日常的に外出する利用者は限られている。今年は、みんなで花見に出掛けるという目標を実行したいと考えている。	日常的な外出支援を利用者の希望や状態に合わせて個別に計画されることが望まれる。利用者の思いを把握して行ける方から散歩やドライブ等の外出を楽しむ工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者はいないため、お金はお預かりしていません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者には支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺菌・加湿・空気清浄機の設備があり、清潔な環境を整えています。また、ディスプレイや小物で季節感を感じて頂けるように工夫しています。	リビングには広く大きな窓があり明るく見晴らしもよい。ソファがリビングと廊下に置かれ利用者はテレビを見たり本を読んだり居室で横になったり自由に過ごしている。壁には、利用者が塗り絵した季節の飾りや手作りカレンダーで飾られ落ち着いた雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活リズムに合わせて、一人になりたい時や利用者同士で過ごしたい時、自由に過ごせるように支援しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具や生活用品を持ち込まれ、安心した生活が送れるように支援しています。	造り付けのクローゼットとベッドが用意され布団もホームのレンタルになっている。使い慣れたタンスや家族のための椅子も持ち込まれ立派な神棚を祀っている居室もある。家族の写真を飾ったり花を置いたりその人らしい心地よい居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせ、安全な動線作り、また、自立した生活が送れるように対応しています。		